

< 巻頭言 >

Evidence Based Public Health: ICT/AI を活用したこれからの保健医療

水島洋

国立保健医療科学院研究情報支援研究センター長

Evidence based public health by using Information Communication Technology and Artificial Intelligence

Hiroshi Mizushima

Director, Center for Public Health Informatics, National Institute of Public Health

1992年に国立がんセンター（当時）で筆者がはじめてインターネットに接続した際には、インターネットを知る人は少なく、インターネット上の情報も限られたものだった。その後インターネットを介してがん情報やニュースなどの提供などを始めた際にも、現在のようなとは夢にも思っていなかった。人工知能（AI）、ビッグデータ、モノのインターネット（IoT）からブロックチェーンなど、情報化の勢いは保健医療・公衆衛生の領域においても活発になってきている。

一方で、平成29年の改正個人情報保護法の改正に関連して、医学研究における個人情報保護のため、その取り扱いが厳しくなったことにより、とくに疫学分野での研究が遂行しにくくなっていることから、次世代医療基盤法など、個人の情報を持ったデータによる活用への模索も始まっている。

科学的根拠に基づいた保健医療政策を進めるためにも、最新の情報技術をうまく活用して情報を解釈していく必要に迫られるなかで、公衆衛生分野に関わる読者に最新の情報関連技術の動向を伝えるために本特集を組んだ。今後の業務遂行にあたり、新しい視点となれば幸いである。